

平成 21 年度事業報告

〔概 要〕

年度当初は米国における低所得者向けの住宅ローン（サブプライムローン）の破綻に起因する不況の波が我が国にも押し寄せ、雇用不安を煽りました。加えて、新型インフルエンザの流行への対応が必要になるなど、大変慌ただしいものがありました。これらの状況下にあつて、与野党が入れ替わる政権交代が実現し、景気回復へ向けて何らかの前進期待を抱かせるものがありました。未だに景気回復に兆しが見えていないのが日本の現状です。

「景気に左右されない」と言われ続けてきた補聴器業界も、2009 年の国内出荷台数は、46 万 1 千余台、対前年比 99.8%（JHIMA 調べ）と、ほとんど成長なしの結果となって表われてしまいました。続々と高機能・高性能の新製品が発表されておりますが、古くなつての劣化でも買い控えとなり、修理して使用する傾向がより多く見られるようになりました。

しかし、実際店頭に立ち、ユーザーの方々と接する販売員の立場からの感想は、徐々にではありますが、新しい動きを感じることができます。それは、ユーザーの方々の中で、補聴器への期待が信頼へと変わりつつあるのではないかと推察できるからです。当協会が取り組んでまいりました「専門技術者による対面販売」の必要性の広報が浸透し始めたのではないのでしょうか。広報委員会では、さらにこの取り組みを推進させるために、補聴器啓発のためのパワーポイントを作成しました。これを全国各地域で開催される集会等で広報・普及活動にご利用いただきたいと思ひます。奮ってご活用ください。

一昨年度、（財）テクノエイド協会には「補聴器協議会」が設置され、その傘下にある「補聴器技能者養成部会」では、現行の「認定補聴器技能者資格制度」の育成カリキュラムを法制上の資格を見据えて見直されてまいりましたが、ほぼその骨子が形をなしてきております。さらに一歩進んで「補聴器の有資格者販売制度」の研究とともに、その制度における当協会の位置づけが重きものになるように中核となる委員を派遣して、私たち認定補聴器技能者が制度の核をなすべく研究を進めております。

当協会は発足から 4 年が経過し、今年度は 91 名の会員増となりましたが、「まだまだ」の感否めません。しかしながら、より適切な方向付けと将来の拡大に備え、会則の見直しと共に各委員会活動の充実に努めてまいりました。

以下、平成 21 年度の活動報告を申し上げます。

〔会員構成〕

会 員 の 別	期首	期末	増減
一 般 会 員	4 名	7 名	3 名
資格認定会員	347 名	395 名	48 名
準 会 員	63 名	103 名	40 名
賛 助 会 員	5 社	5 社	0 社
特 別 会 員	0 名	0 名	0 名
会 員 合 計	419 名	510 名	91 名

〔事業報告〕

○特定非営利活動に係る事業について

平成 21 年度の重点活動目標として次の 4 項目を掲げて活動して参りました。

1. 補聴器技能者の育成事業（定款第 5 条第 1 項①）

- ①必修指定講習会 I 及び II を主催し、講師、判定員を派遣しました。
- ②補聴器技能者基礎講習会（（財）テクノエイド協会主催）に運営要員、講師及び実習指導員を派遣しました。
- ③総会時に研修会を開催しました。
- ④特別講座「技能復習 I」を開催しました。
- ⑤研修会「きっと、役立つ！」シリーズの第 1 回を開催しました。

2. 補聴器技能者の普及啓発活動（定款第 5 条第 1 項②）

- ①各種講習会、催事会場で補聴器普及と協会の広報活動を行いました。
- ②未加入の補聴器技能者や一般の方々にも広報できるようホームページにコンテンツ（技能者インタビュー）を追加。
- ③オヤノコト.エキスポ 2009、国際福祉機器展にて補聴器相談会を開催しました。
- ④補聴器普及・啓発のためのパワーポイント資料を作成しました。

3. 本法人の関連学会・団体との情報交換及び研究等共同事業（定款第 5 条第 1 項③）

- ①JHIDA、JHIMA と当協会の業界 3 団体で合同三役会議を 4 回開催し、意見交換を行いました。
- ②テクノエイド協会の要請により、新たな有資格者販売制度における有資格者の養成カリキュラムの研究を行いました。
- ③補聴器販売ガイドラインの作成に着手いたしました。
- ④一部の地方医師会主催の「耳の日健康相談会」から要員派遣と機材提供の依頼を受け、対応しました。

4. その他目的を達成するために必要な事業（定款第 5 条第 1 項④）

- ①会員名簿を作成し、全会員と関係諸団体に配布しました。
- ②倫理綱領を制定しました。
- ③あらゆる機会を捉え、募集のための広報活動を展開してまいりました。その結果期首から 91 名の増員となりました。

○その他の事業（定款第 5 条第 2 項）

実施しておりません。

〔主な活動内容〕

以下に平成 21 年度の主な活動報告を記します。

- 4 月 平成 21 年度第一回合同三役会議参加。資格制度委員会開催。
- 5 月 会計監査実施。総会資料準備。総務委員会開催。資格制度委員会開催。
- 6 月 第 10 回理事会開催。第 4 回通常総会開催。選択指定講習会実施(総会併設)。
ホームページによる技能者インタビュー掲載開始
- 7 月 オヤノコト・エキスポ 2009 で補聴器相談を実施。広報委員会開催。
必修指定講習会Ⅰ(大阪)を主催・開催, 会場にて広報活動。必修指定講習会Ⅱ(名古屋)を主催・開催, 会場で広報活動。平成 21 年度第二回合同三役会議参加。
会員名簿の発行。
- 8 月 テクノエイド協会補聴器技能者基礎講習会に講師, 運営要員を派遣, 会場で広報活動。
研修会企画部会開催。
- 9 月 国際福祉機器展で補聴器相談開催。
- 10 月 総務委員会開催。平成 21 年度第三回合同三役会議参加。研修会企画部会開催。
- 11 月 講習会「技能復習Ⅰ」開催。テクノエイド協会認定補聴器技能者試験会場で広報活動。
- 12 月 補聴器技能者講習会会場で広報活動。総務委員会開催。広報委員会開催。第 11 回理事会開催。倫理綱領制定。
- 1 月 平成 21 年度第四回合同三役会議参加。資格制度委員会開催。研修会企画部会開催。
- 2 月 テクノエイド協会補聴器協議会。研修会企画部会開催。広報委員会開催。研修会『きっと, 役立つ!』を開催。
- 3 月 研修会企画部会開催。

その他, 適時に開催されるテクノエイド協会主催の技能者試験部会, 専門店認定部会, 技能者養成部会に参加しました。

平成21年度決算報告書

平成21年度 特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

平成22年3月31日現在

特定非営利活動法人 日本補聴器技能者協会

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
流動資産			
現 金	569,065		
普 通 預 金	2,761,108		
郵 便 貯 金	61,170		
流動資産合計		3,391,343	
資産合計			3,391,343
II 負債の部			
流動負債			
前 受 金	62,000		
流動負債合計		62,000	
負債合計			62,000
III 正味財産の部			
正味財産			3,329,343
(うち当期正味財産増加額)			(1,510,795)
負債及び正味財産合計			3,391,343

平成21年度 特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

自 平成21年4月1日

至 平成22年3月31日

特定非営利活動法人 日本補聴器技能者協会

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額		予 算 - 決 算
I 収入の部				
1 会費・入会金収入				
入会金収入	150,000	460,000		△310,000
会費収入	5,300,000	5,404,500		△104,500
	5,450,000		5,864,500	△414,500
2 事業収入				
特定非営利活動事業	12,600,000	14,083,000		△1,483,000
	12,600,000		14,083,000	△1,483,000
3 寄付収入				
寄付金収入	0	100,000		△100,000
	0		100,000	△100,000
4 雑収入				
受取利息	5,000	1,604		3,396
雑収入	0	10,611		△10,611
	5,000		12,215	△7,215
収入合計	18,055,000		20,059,715	△2,004,715
II 支出の部				
1 事業費				
特定非営利活動事業				
育成事業	9,000,000	9,126,976		△126,976
啓発事業	2,000,000	1,663,839		336,161
研究事業	600,000	936,914		△336,914
	11,600,000		11,727,729	△127,729
2 管理費				
会議費	2,900,000	3,016,154		△116,154
理事会費	1,500,000	669,020		830,980
その他会議費	100,000	357,120		△257,120
資格制度委員会	500,000	1,359,674		△859,674
広報委員会	600,000	407,580		192,420
総務委員会	200,000	222,760		△22,760
総会費	600,000	1,163,823		△563,823
旅費交通費	300,000	454,430		△154,430
通信費	250,000	340,695		△90,695
消耗品	250,000	220,215		29,785
支払手数料	150,000	13,581		136,419
賃貸料(家賃)	600,000	600,000		0
租税公課	5,000	950		4,050
顧問料(税理士他)	126,000	0		126,000
寄付金	0	0		0
事務委託費	900,000	900,000		0
雑費	150,000	1,315		148,685
渉外費	50,000	110,028		△60,028
予備費	0	0		0
	6,281,000		6,821,191	△540,191
3 その他資金支出				
雑損失	0	0		0
	0		0	0
支出合計	17,881,000		18,548,920	△667,920
当期収支差額	174,000		1,510,795	△1,336,795
前期繰越収支差額	1,751,842		1,751,842	0
次期繰越収支差額	1,925,842		3,262,637	△1,336,795

平成21年度 特定非営利活動に係る事業会計正味財産増減計算書

自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日

特定非営利活動法人 日本補聴器技能者協会
(単位：円)

科 目	金 額		
(増加の部)			
資産増加額	1,510,795		
負債の減少額		1,510,795	
増加額合計			1,510,795
(減少の部)			
資産減少額			
当期収支差額			
負債増加額			
減少額合計			0
当期正味財産増加額			1,510,795
前期繰越正味財産額			1,818,548
期末正味財産合計額			3,329,343

平成21年度 特定非営利活動に係る事業会計財産目録

平成22年3月31日現在

特定非営利活動法人 日本補聴器技能者協会
(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
流動資産			
現 金	569,065		
普 通 預 金	2,761,108		
郵 便 貯 金	61,170		
流動資産合計		3,391,343	
流動負債			
前 受 金	62,000		
流動負債合計		62,000	
正味財産			3,329,343

注記 普通預金 みずほ銀行 神田駅前支店 普通預金 2126161
 郵便貯金 振替貯金 00130-5-631089
 振替貯金 00180-1-299580
 前受金 入会金・会費
 研修会受講料

定款第5条第1項2号に定めるその他の事業に係わる収支はありません。

以上のおり報告いたします。

平成22年6月18日

特定非営利活動法人 日本補聴器技能者協会

理事長 宮永 好章

当協会の会計に関する帳簿及び証拠書類等に基づき

厳正なる監査を行った結果、正確かつ妥当であることを認め、

ここに報告いたします。

平成22年5月25日

監 事 田代 實
 監 事 菅谷 保巳

